

平成 29 年度第 1 回岡崎市少年愛護センター運営委員会

日 時 平成 29 年 7 月 5 日（水） 午後 2 時

会 場 岡崎市福祉会館 視聴覚室

出席委員

委員長 石 川 優 （岡崎市社会福祉協議会長）
平 松 文 子（岡崎市民生委員児童委員協議会主任児童委員連絡会会長）
柏 原 美和子（学区女性団体代表（井田学区））
成 瀬 眞佐子（岡崎少年愛護センター地域指導員）
川 口 厚 （岡崎市小中学校現職研修委員会生徒指導部長（甲山中学校長））
中 垣 明 道（岡崎市小中学校現職研修委員会生徒指導部長（細川小学校長））
田 中 宏 明（県立高等学校生徒指導部代表（岡崎高等学校教諭））
田 中 信 宏（私立高等学校生徒指導部代表（岡崎学園高等学校教諭））
青 山 義 弘（岡崎警察署生活安全課長）
塚 本 有 子（西三河福祉相談センター児童育成課長）
三 輪 晴 美（一般公募）
宮 澤 会美香（一般公募）

事務局 小野 鋼二 社会教育課長
荻野 泰久 社会教育課副課長
社会教育課社会教育係 大村、酒井、木島、松崎
少年愛護センター 金澤、大山

議 題 （１）平成 28 年度の活動報告について

配布資料に基づき、少年愛護センター職員より平成 28 年度の活動状況を報告した。街頭補導や少年相談については、具体的な例を交えながらの報告となった。

- ・ 191 名の指導員の協力の下、青少年の非行防止・愛護善導の補導活動を行った。1 年間の回数は 569 回、場所は 3,077 カ所、補導した少年の数は 3,457 人。「愛の一声」を基本とした少年への声掛けが基本だが、喫煙や怠学行為等の少年は家庭、学校等へ通報連絡した。（通報連絡した少年の数 19 人）
- ・ 未成年の喫煙というと建物の影や駐車場の隅で「隠れて吸う」イメージがあるが、社会全体での分煙が定着してきているので、喫煙をする少年も喫煙室で吸っていることが多い。
- ・ 少年相談は、来所による相談が 16 件、電話による相談が 10 件あった。内容は不登校や学校でのことが主だが、近年、SNS に関する相談も受けるようになった。

(委員からの質問と事務局の回答)

・ 3 月に現場指導した少年の数が多い理由は何か？

→ 小中学校、高校が春休みになるため、ショッピングセンターなどで声をかける数が多い。

(2) 平成 29 年度の活動計画について

配布資料に基づき、愛護センター職員から平成 29 年度の活動計画を説明。

- ・ 街頭補導は年間で 580 回以上、指導員は延べ 2,800 人あまりの動員を予定している。センター補導では大型ショッピングセンター・ゲーム場・公園などを巡回補導する。夏には河川を巡回するなど、時期等に応じて臨機応変に巡回場所を変えている。学区補導では、学区の実情に応じた巡回活動、および民生委員・主任児童委員と生徒指導担当教諭の情報交換を行う。
- ・ その他、来所および電話による相談活動、不審者被害状況の集約と情報提供を行うほか、スクールソーシャルワーカーや教育相談センターとの連携や、教員への直接のアドバイスなども実施している。
- ・ テスト週間などにおける高校生のフードコートでの過ごし方や、中高生のスマートフォンの利用、中高生の自転車・小学生のキックスケーターの利用のマナーに問題がある。

議事終了後、意見交換・情報交換を行い、それぞれの委員の立場から、青少年を取り巻く状況について意見交換を行った。